

2024年2月1日

ドメーヌナカジマの味のもと「もうちょっと美味しくするために」

素晴らしいワインをもっと研究して

自社畑のワインをもっと美味しくしてみたい、と思いました。

	ブルゴーニュ特級畑	ボルドー左岸	ドメーヌナカジマ
水分供給			
	○雨量700ミリ(適量)	△雨量800ミリ(多め)	✕雨量1000ミリ(多め)
		○局所的な地下粘土層	
		○地下9mの基盤岩と石灰岩	
排水			
	✕粘土石灰(排水力低い)	○砂利の排水力+排水路	✕粘土(排水力低い)
	○斜面流出		○斜面蒸発・雑草蒸発(和地区)
	○湿度低い	○気温高め	○排水路・雑草蒸発(御堂地区)
	△低温(蒸発すくなめ)	✕湿度高い	○気温高め
			○低湿度
低収量			
	○低収量クローン	○csの小房低収量	○施肥少なめで低収量
	○高密植の低樹勢による低収量	○砂利で地力低い	○斜面でチッソ流亡
	○斜面でチッソ流亡		
ミネラル供給			
	○粘土石灰のカルシウム供給力	○牡蠣殻基盤岩、石灰岩	✕なし
	(モンモリロナイト)		

ブルゴーニュは

もともと雨が少なく、グランクリュは斜面中腹のカルシウム供給能力が特別に高い（モンモリロナイトが分布する）場所。

ボルドーは

雨がやや多めだが、排水性が良く、
1級シャトーは水分と養分の供給が適度な場所

ドメーヌナカジマは、

雨が多く、しかし水分損失も多め。
水分損失をいかに増やすかがこれまでのテーマだった。
これまで、和地区の畑は急斜面、御堂地区の畑は明渠排水、を試みた。

ここからドメーヌナカジマが品質改善のために考えられることは今2つ

①ミネラル供給の強化。

現在は和地区はpH5.5くらいの酸性土壌でカルシウムなど不足気味。
石灰肥料を施肥や効率の良いミネラル供給方法を研究してみたい

②カベルネソービニオンの可能性

カベルネフランの区画に数本混じっているカベルネソービニオン（cs）が
カベルネフランより小粒で小房で着色も良い
→カベルネフランの区画により多く混植しても良いかも。
特に温暖化している今、csは熟期が遅く、酸の高いので
酸を補う方法としての可能性があると考えている。
また小粒で果皮が硬くて厚いので雨量の多い年でも肥大しにくい。